

R48 ROADMAP



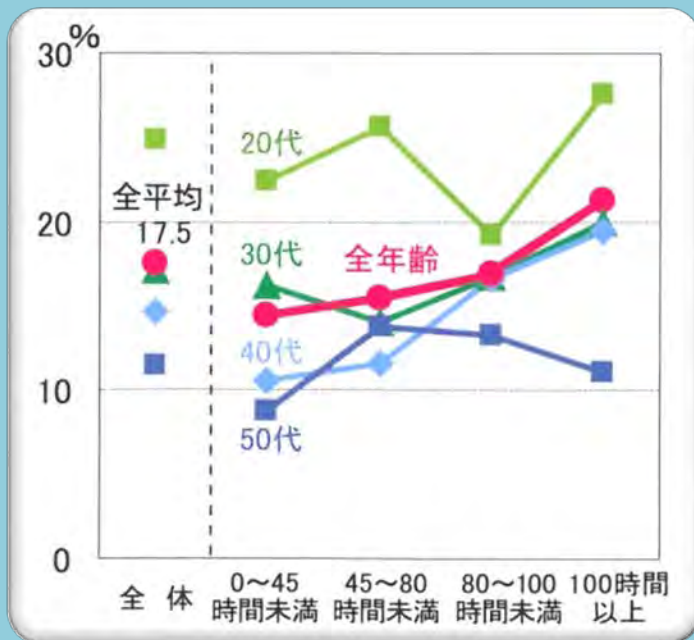
[アールよんぱち] 2010.8.24 No.4

所定外労働時間とヒヤリハットの関係

日建協『時短アンケート 2009』によると、所定外労働時間が長くなるほど、ヒヤリハットが多くなる傾向が明らかになりました。

下の図は、過去1年間にヒヤリハットをどれくらい経験したかを問う設問に対し、月1回以上と回答した組合員の割合を示したものです。

組合員の割合
ヒヤリハットを経験した



所定外労働時間（時間/月）

左の図の全年齢（赤いライン）を見てわかるように、長時間労働になると、健康面だけでなく、注意力が低下するリスクだってあるんだ。

建設産業は安全第一！安全管理することが多いわたしたちのヒヤリハットを少なくすることも重要だね。



ライフ

日建協定期大会後に図画コンクール受賞式

子どもたちが
「家族と休みの日にしたいこと」

日建協 第1回 **図画コンクール**

提言活動

業界団体との定期懇談会②

公共工事における課題

コラム

奥村組職員組合 渡邊 洋 さん

同じ阿呆なら 踊らにゃ損々

次号予告

■業界団体との定期懇談会③

建設産業の魅力化

■提言活動
■コラム

お知らせ

「Roadmap48」とは

建築工事の4週8休(週休2日制)での工期設定の実現や、公共工事における労働条件向上と諸課題の解決にむけた提言活動など、日建協の活動を組合員の皆さんに知っていただくための広報誌です。

①組合活動の資料として、②職場での情報交換の材料としてご活用ください。

- 次号の予定は変更する場合があります。
- この広報誌は日建協ホームページからダウンロードできます。

<http://www.nikkenkyo.com>

NIKKENKYO NEWSをご覧ください。

日建協

ライフ

日建協 第1回 図画コンクール ～家族と休みの日にしたいこと～



(右上) 受賞者のみなさん
(右下) 金賞の「パパ また沖繩の水
族館に行こうよ」
(上) 「第1回 時短アイデア大
賞・図画コンクール」のパンフレ
ット 作品集はこちら！
[http://homepage1.nifty.com/nikke
nkyo/9booklets/1007jitantaisyo_s
akuhin.pdf](http://homepage1.nifty.com/nikke
nkyo/9booklets/1007jitantaisyo_s
akuhin.pdf)



日建協では、第1回 時短アイデア大賞とともに開催された図画コンクールの表彰式が、日建協の定期大会と同日の8月3日に、定期大会と同じ会場で開催された。

その家族が記念写真を撮る光景も。会場は温かい空気に包まれた。表彰式では、小学校入学前から小学校6年生までの入賞者と、その家族を招待し、大勢の参加者が見守るなか行われた。子供たちは、名前を呼ばれると、緊張しながらも元氣よく返事をして、賞状を受け取っていた。子供たちも、夏休みの良い思い出になったのではないかと。受賞作品は、日建協ホームページにて、図画コンクールのWEB展覧会を開催する予定。ぜひ、ご覧いただきたい。

コラム

同じ阿呆なら 踊らにや損々



奥村組職員組合 渡邊 洋さん

踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにや損々。これは「よしこの」と呼ばれる阿波踊りの踊り唄の一節です。私の生まれ故郷徳島では、お盆は街中がこの阿波踊り一色に染まります。

これまでは「見る阿呆」専門だったのですが、今年は7歳になる息子と初めて「踊る阿呆」に挑戦しました。

踊ってみての感想は、いつもの演舞場の風景がまるで違ってみえたこと、そしてとても充実したすがすがしい気持ちになったことです。はじめはあまり乗り気でなかった息子も、踊った後には「楽しかった！」と満足げな様子で夜店のイカ焼きを頬張っていました。

仕事も同じことではないかと思えます。隠せず取り組むことで、新たな発見があり、困難を乗り越えた時の充実感が得られるのだと思えます。そして、仕事と生活においてこの充実感を得ることこそ「ワーク・ライフ・バランス」の原点なのだろうと思えます。

「同じ阿呆なら踊らにや損々」、このフレーズは「何事にもまず飛び込んでみなさい」と、私たちに教えてくれているような気がします。

提言活動 業界団体との定期懇談会②

公共工事における課題

毎年、日建協は、職場における労働環境の実態や問題点を共通認識し、課題解決にむけてともに取組むため、業界団体（日建連、全建、日建経、土工協、建築協）と意見交換を実施している。

今回、公共工事に関する提言活動では、地方整備局への提言活動の結果などを報告し、無報酬業務の解消につながる期待できる地方整備局の取組みなどを紹介した。その上で、受発注者間における片務性をなくし、無報酬業務を解消していくことが、建設産業の将来のためにも重要であることとを提言した。そのためにも、業界団体からもより強い意見発信をすることを求めた。

この定期懇談会の目的の一つは業界団体との連携した取り組みである。これまで、大学生を対象とした出前講座では、業界団体との連携に至っているが、提言活動においては、強力な連携までには至っていない。日建協の取組みを建設産業全体にさらに広げるためには、建設業界団体との一層の連携が重要である。今後とも日建協では意見交換をつうじて、業界団体との相互認識を深める活動を展開する。

(右) 意見交換の様子
(2010. 3. 26
日本土木工業会)

